

故障の原因と対策

こんな時は	考えられる原因	このように対応してください
●蛇口のハンドルを倒しても冷水も温水も出ない。	●タンク内に水が入っていない。	●給水栓を開けて蛇口のハンドルを倒してタンク内に給水してください。 (タンク内に水が入っていないと保護回路が作動し加熱が行われません。)
●蛇口のハンドルを倒していないのに水や蒸気が蛇口から強く吹き出す。	●水が沸騰している。 (最初の加熱時に蒸気が出るのは異常ではありません。)	●蛇口ハンドルを倒して、蒸気と水をしばらく流します。 ●タンク前面の温度調整ダイヤルで水温の調整をします。
●水が熱くならない。	●電源プラグがコンセントに差し込まれていない。	●器具がアース付きコンセントに正しく接続されていることを確認します。 ●漏電遮断器のランプが点灯している場合は、漏電の確認をし、リセットボタンを押します。 ●元ブレーカーが落ちていないことを確認します。
●水が熱すぎる、または十分熱くならない。	●温度調整ダイヤルが適切にセットされていない。 ●連続して給湯を行った	●温度調整ダイヤルをゆっくり回して調整し、蛇口ハンドルを倒して20秒間温水を流し、再加熱をしてください。 ●水が新設定温度に達するには、5～7分を要します。 ●2～3カップ(1カップ/約180cc)の連続給湯をした場合、次の給湯まで1～2分待ってください。タンク内の水温の上昇を待つ必要があります。
●水が蛇口から出ず、通気チューブから出る。	●温水チューブに詰まりがある。	●温水チューブに折れ、ねじれ、挟まれないことをチェックします。 ●上記の異常がない場合は、取扱店に点検を依頼してください。
●水が蛇口や通気チューブから間欠的に滴り落ちる。	●水圧が低い。 ●温水チューブに詰まりがある。	●電源プラグを抜き、2～3分たっても水の滴りが止まらなければ、給水の元栓が十分開いているかどうか、チェックします。 ●温水チューブの異常もなければ、取扱店に点検を依頼してください。
●蛇口からの水流が分かれる。	●蛇口内に異物がある。	●蛇口先端にごみが付着していないか、チェックしてください。

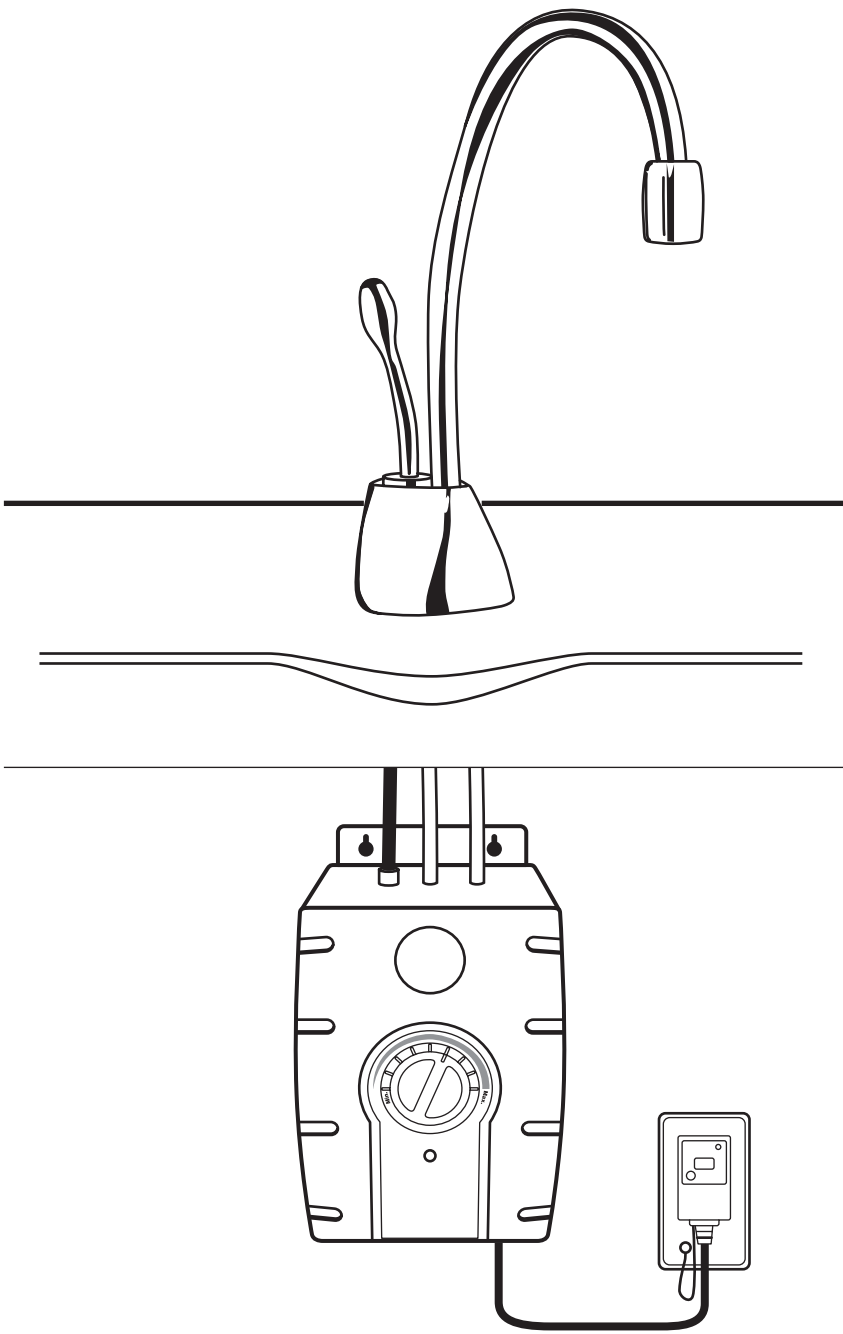
仕 様

タ ク	容量2.5リットル、ステンレス製
温 度 調 節 幅	約88～98℃(タンク内水温)
電 圧	100V
電 力	980W
電 源 コ ー ド	漏電遮断プラグ付き電源コード(1m)



電気温水器 モデルGN1200

据付け説明書



InSinkErator

URL: <http://www.insinkerator.jp>

目 次

安全上のご注意について..... 1

作業を始める前に知っておいていただきたいこと..... 2

据付け前の準備..... 3

据付け..... 3～5

1.蛇口の準備..... 3

2.タンクの据付..... 4

3.給水チューブのはめこみ..... 5

4.温水チューブと通気チューブのはめこみ..... 5

5.給水の確認..... 5

6.電源を入れる..... 5

取扱いとメンテナンスについて..... 6

故障の原因と対策..... 7

仕様..... 7

安全上のご注意について

据付けされる人やお使いになる人への危害、財産への損害を未然に防ぐために必ずお守りいただくことを次のように説明しております。

⚠ 危険

危険は、重大災害を引き起こす危険性があり、緊急な注意を促すものです。

⚠ 警告

警告は重い怪我やあるいは死を招くかも知れない行為に対して注意を促すものです。

⚠ 注意

注意は軽い怪我や器具の損傷を招くかも知れない行為に対して注意を促すものです。

⚠ 危険

感電の危険：アースなしで使ったり、不適正な接続をすると、感電により重大な怪我または死に至ることがあります。装置は必ずアースをしてください。。本温水器は漏電遮断プラグがついてありますが、正しく取り付けられたアース付きコンセントに差し込んで使用してください。

ご不明な点がある場合は専門の電気店にご相談ください。

⚠ 注意

怪我：本タンクは加圧されていないタンクであり、改造しないでください。

通気チューブを詰まらせたり、他のタイプの温水器やバルブをタンクに取り付けしないでください。必ずInSinkEratorから供給された蛇口や部品を使い、修理の場合は専門家に相談してください。

⚠ 警告

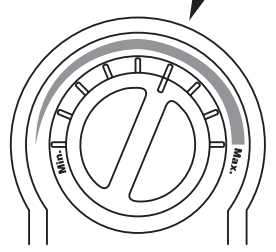
火災の危険：火災を未然に防ぐため、タンクの近くには、紙、布、スプレー缶などの可燃物を置かないでください。この製品の近くにガソリンや火災蒸気/液体を置いたり、使用したりしないでください。

⚠ 注意

器具の損傷：水漏れによる被害を防ぐため、チューブが緩んだり、裂けたりした場合は取り替えてください。定期的に水漏れの兆候がないか点検し、水漏れを未然に防いでください。

取扱いとメンテナンスについて

温度の調整



約93℃

●タンクの前面にある温度調整ダイヤルを右に回せば、温度上昇となり、左に回せば、温度低下となります。必要に応じて、調整してください。その際ダイヤルは急激に回さないようにしてください。

工場からの出荷時、温度の設定は約93℃となっています。ダイヤルをゆっくりと回して適温に調整してください。ダイヤルを回した後、蛇口ハンドルを20秒間倒して、再加熱を行ってください。

⚠ 危険

感電：

感電を防ぐために、タンクを使用するまで漏電遮断プラグは抜いておいてください。アース付きコンセントを使用してください。

⚠ 注意

やけどの危険：

湯を沸騰させないようにしてください。

やけどの危険があります。

長期間使用しないとき

電気温水器を長期にわたって使用しない場合は、漏電遮断プラグを抜き、タンクの栓を抜いて排水し乾燥した状態で清潔に保管してください。また、気温が0℃以下となる場合も、タンクの栓を抜いて排水してください。排水方法は、次の手順に従ってください。

1. 漏電遮断プラグを抜きます。(電源ランプが消える)
2. 蛇口のハンドルを倒して、水温が冷たくなるまで水を流します。
3. 給水蛇口の元栓を締めます。
4. タンクの底中央にある排水ねじを取り外し、水を空の容器に流します。
5. タンクが空になったら、排水ねじをタンクの底に取り付け、しっかり締めます。ただし、締めすぎないように注意してください。

注意：再使用する時は、必ずタンクに水を満たしてから、漏電遮断プラグを入れてください。

蛇口とタンクの清掃

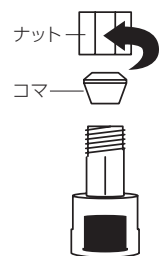
- 温水器の蛇口やタンクの樹脂部品を洗う場合は弱い中性洗剤をお使いください。
- 酸性、アルカリ性及び有機溶剤の入った洗剤は使用しないでください。

お手入れ

- 定期的にタンクに水漏れの兆候がないか点検し、水漏れのある場合は直ちに使用をやめてください。
- 水漏れによる被害を防ぐため、チューブが緩んだり、裂けた場合は取り替えてください。

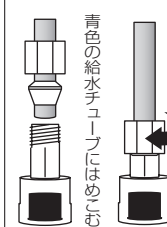
3 給水チューブのはめこみ

A 給水管コネクタの分解



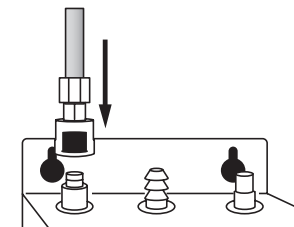
- タンクに同梱されている給水管コネクタを用意します。真鍮製のナットと樹脂製のコマをコネクタからはずして分解します。

B 給水チューブとコネクタの接続



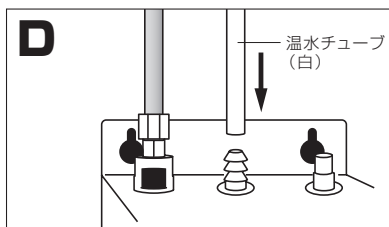
- ナットとコマ（コマの向きは図を参照）を蛇口からの青い6.4mm径の給水チューブにはめます。次にそのチューブを給水管コネクタに挿入して、レンチでナットを締めます。なお適正トルクは0.45Nm～1.13Nm（4.6kg・cm～11.5kg・cm）の範囲です。

C 給水管コネクタをタンクへ接続

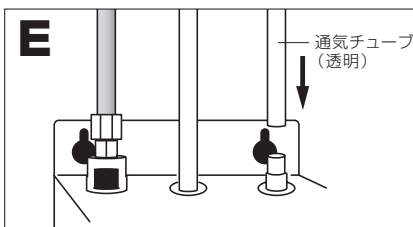


- このコネクタをタンクの給水口にパチンと固定するまで押し込みます。

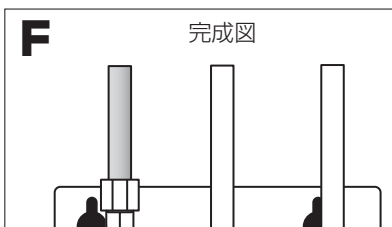
4 温水チューブと通気チューブのはめこみ



- 白の11mm径温水チューブをタンク上面中央の金属性コネクタに差し込み、しっかり押し込みます。〔カリ2つ分、はめこむこと（13mm）〕

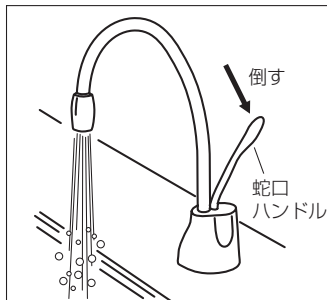


- 透明の8mm径通気チューブをタンク上面右側のコネクタにはめこみます。（13mmはまっていること）
- 入りにくい場合は少し濡らしてください。



- チューブが過度にたるまないようチューブを切って調整してください。

5 給水の確認



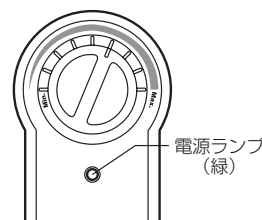
- 給水バルブを開け、蛇口のハンドルを倒して給水します。約1分でタンクは一杯になり、蛇口から水が流れ出ます。すべての配管をチェックして、水漏れがないことを確認してください。
- タンク内に水が入っていることを確認してからプラグをコンセントに差し込んでください。
- 水が入っていない状態で加熱を行なう「空炊き」の状態になりますと、保護回路が作動し、強制的に通電が止まります。プラグを抜いてタンクに給水してください。

⚠ 注意

プラグをコンセントに差し込むのは一番最後にしてください。

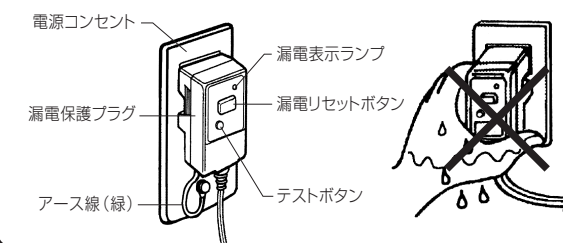
6 電源を入れる

- チューブやコネクタの点検が終了し、すべてが良好であれば、アースをした漏電遮断プラグをコンセントに差し込みます。
- プラグを差し込むと、タンク全面にある電源ランプ（緑色）が点灯します。
- 温水器の水は運転開始直後、沸騰する場合がございます。沸騰が長引くようなら、温度調整ダイヤルで温度を調整してください。



⚠ 危険

- 漏電遮断プラグのアース線は必ず接地下さい。
- 濡れた手でプラグに触れないで下さい。



作業を始める前に知っておいていただきたいこと

- 本電気温水器を安全に据付け、使用し、ご満足いただくために、事前にすべての説明、注意、警告、危険の個所を読んでください。
- 温水器を通常の給水設備に接続する際は、特別な配管を必要とはしません。
- 電気配線とその接続には各種法規に従ってください。
- 温水器の電源として、流しの下にアース付き100Vコンセントが必要です。
- コンセントからは電気が連続的に供給されるようになっていなければなりません。

- コンセントにはアースがついていることを確認してください。
- タンク本体内部は塩素系の洗剤で洗浄しないでください。供給水の塩素イオンが高いと思われる場合は、給水ろ過装置を使うことをお勧めします。
- 水圧が270kPa（2.754kg/cm² 39.15psi）以下としないようにしてください。もし水圧が低下すると、器具の適正運転ができなくなります。
- タンク内の部品を動かすと、カタカタと音がしますが、これは異常ではありません。

●●● 作業を始める前に必要なこと ●●●

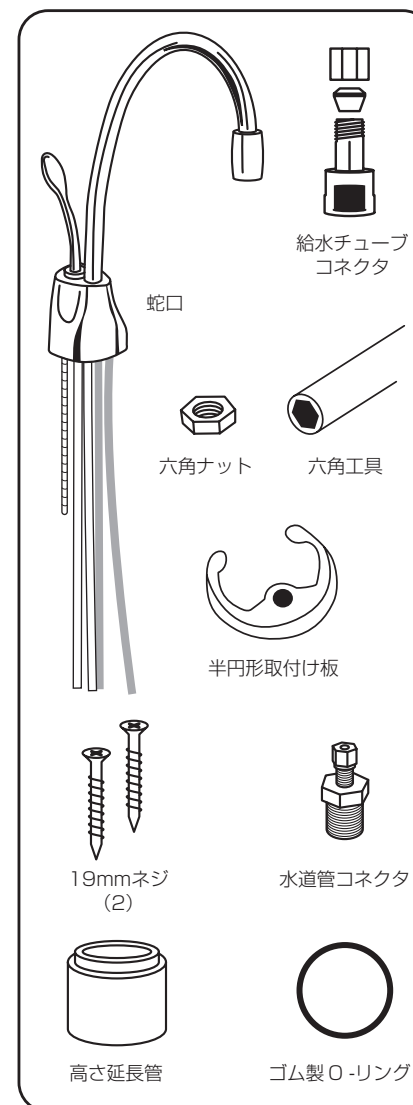
必要な工具など：

- ドリル
- 圧縮継手、T-継手またはサドルバルブ
- モンキーレンチ
- 鉛筆
- 巻尺
- 水準器
- プラス／マイナスドライバー

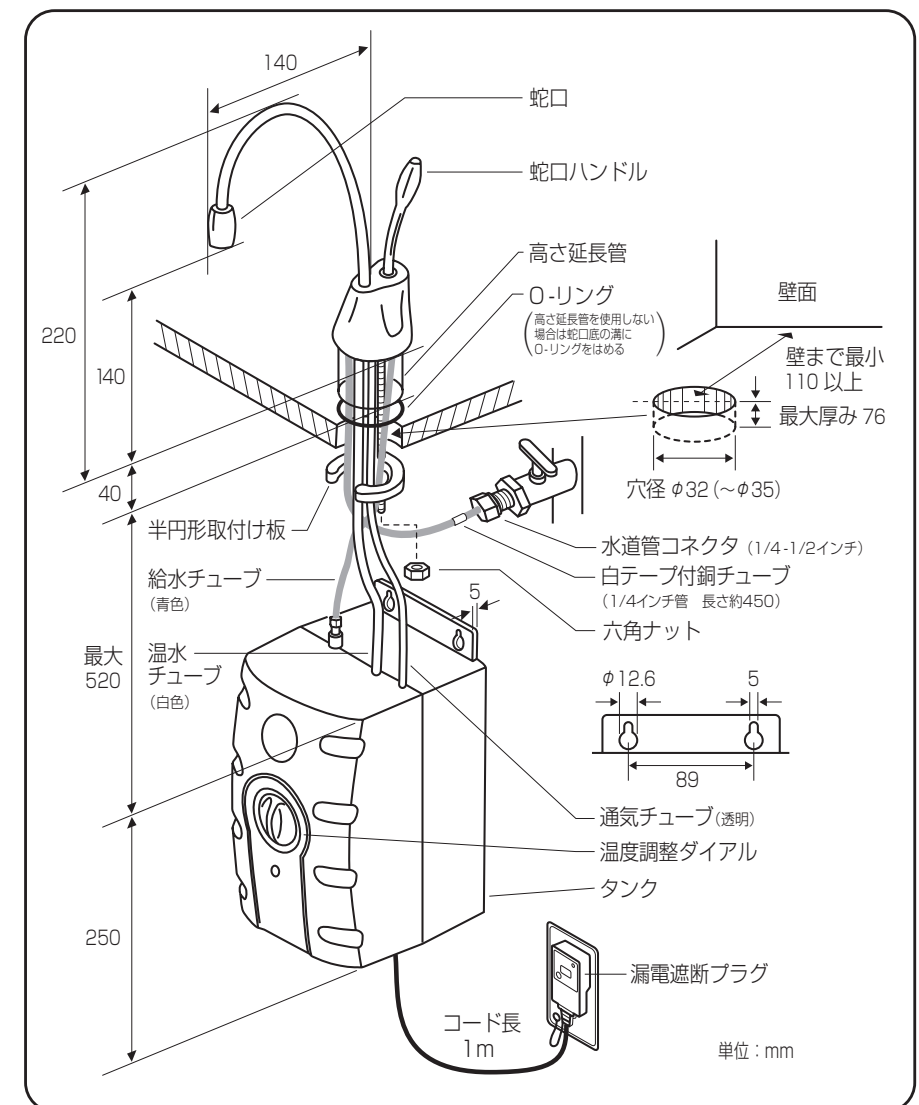
あった方が良いもの：

- 壁への留め金具
- 穴鋸
- 深皿レンチ
- 穴あけパンチ
- ステンレスの流しに取り付け穴が必要な場合は、ステンレスに穴をあけるため、（32mm から35mm の穴をあける）穴鋸または穴あけパンチが必要です。ステンレス以外の表面に穴あけをする場合は専用工具をご使用下さい。

同梱品

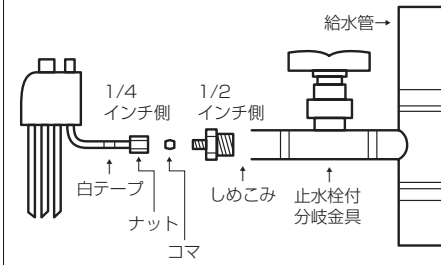


構造概略図



据付け前の準備

水道管との接続



- 水道管コネクタの接続は、水道管に止水栓付の分岐金具を取り付けます。分岐金具に水道管コネクタの1/2インチ(13mm)側を締め込みます。

警告

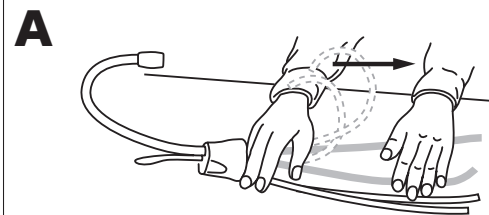
感電事故：
配水管工事には電気ドリルは使用しないで下さい。感電事故の恐れがあります。コードレスドリルか、手動ドリルを使用して下さい。

注意

ペーストやテープのシーラントを配水管の接続に過度に使用しないで下さい。このような製剤の使用は細い配水管を詰まらせる事があります。

据付け

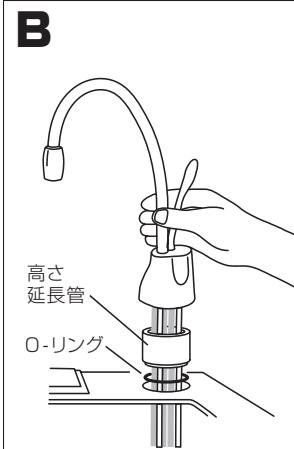
1 蛇口の準備



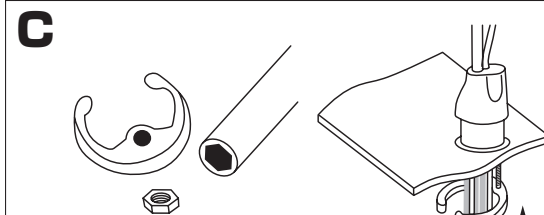
- 各チューブは梱包と出荷の都合上、折り曲げてありますので、図のように片方の手でヘッドをおさえ、もう一方の手でチューブをゆっくりと延ばして下さい。

注意

器具の損傷：
銅配管を潰したり折ったりしないでください。チューブの最先端25mmを変形させないでください。

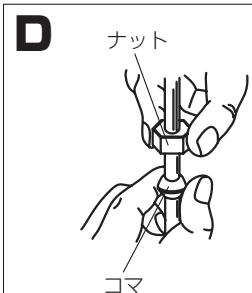


- チューブをシンクの穴やカウンター上面から押し込んでゆき、蛇口底部が穴やカウンターにおさまるようにします。
- 高さ延長管を使う場合は蛇口底部とカウンターの間に挟み、O-リングは高さ延長管の下側の溝に正しくセットして下さい。

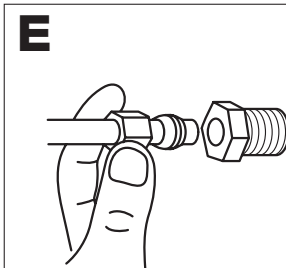


半円形取付け板はチューブ全体を囲み、シンクの穴の方向に締め付けていきます。

- シンクの下から、半円形取付け板を通しボルトに通します。
- 通しボルトに六角工具を使って六角ナットを取り付けます。この際、蛇口の方向を正しくセットして下さい。
- 六角工具の穴にドライバーを差込み、ナットを締めて蛇口を固定します。

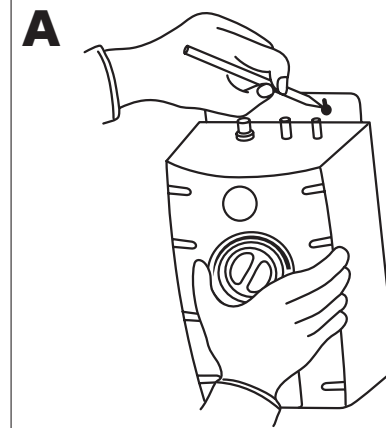


- 蛇口から出ている白テープのついた銅チューブの端に水道管コネクタ1/4インチ(6.5mm)側をナット、コマの順ではめこみます。



- 次にナットを水道管コネクタの1/4インチ(6.5mm)側の穴に真っ直ぐに入っているのを確かめ、指で締めます。更にレンチでナットを締めますが、強く締め過ぎないように注意して下さい。

2 タンクの据付

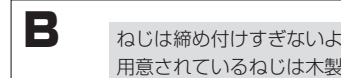


タンクは傾かないように取り付けてください。

- 配管と電気配線が届くことを確かめ、シンクの下にタンクが垂直に取り付けられる場所を選びます。タンクは給水蛇口下から520mm以内で、アース付きコンセントから1m以内に取り付けてください。
- 取り付け位置が決まりましたらタンクを手で支えながら、2本の吊るしボルトの位置を鉛筆で印をつけてください。
- 必要なら排水の余地を取った上で取り付けてください。

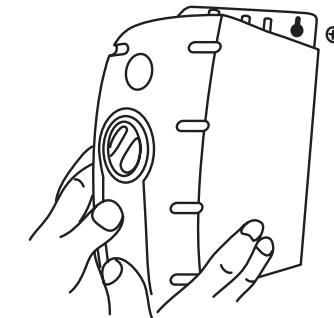
警告

器具の損傷：
配管や電気配線をたるませたり、無理に伸ばしたりしないでください。



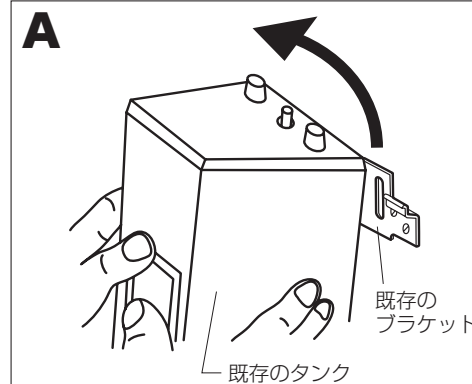
ねじは締め付けすぎないようにしてください。用意されているねじは木製の壁にのみ使用してください。その他の壁には専用の留め具を手配してください。

タンクを吊るため、6.4mmほど残します。

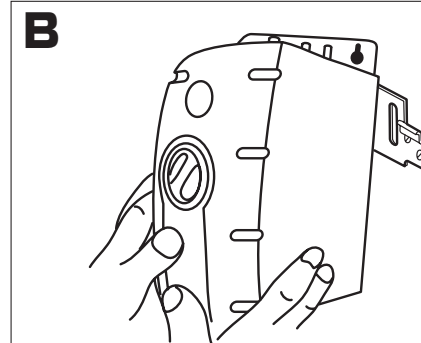


- 印をつけた場所に3.2mmの下穴をあけます。この穴にねじを留めてゆき、最後の6.4mmを残しておきます。
- タンクをねじに掛けて吊るします。
- ねじを半回転だけ締めて固定してください。

旧型タンクとの入れ替えの場合



- 既存のタンクの電源プラグを抜きます。
- 蛇口のハンドルを倒して、タンク内の水が冷えるまで水を流します。
- 給水の元栓を閉じて、タンクへの水の供給を止めます。
- タンクの下に、1.9リットル以上の大きさのバケツを用意し、タンク底の排水口を開けてタンク内の水をすべて抜きます。
- 青い6.4mm径のチューブをとめているコネクタのリングを押して、チューブをゆっくりとコネクタからはずします。
- 透明の8mm径チューブ(通気)と白い11mm径チューブ(温水出口)をコネクタから引き抜きます。
- タンクを持ち上げ、ブラケットからはずします。



- 新しいタンクの背面には既存のブラケットにかける穴があります。
- タンクを既存のブラケットに引っ掛けます。